

6. 陸上昆虫類等調査結果の概要

陸上昆虫類等調査結果の概要

(1) 分布状況からみた河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 21 水系 21 河川で確認された陸上昆虫類等は、28 目 449 科 5,963 種でした。確認種数が多かった河川は、北海道地方の天塩川で 1,792 種、次いで中国地方の天神川で 1,676 種、東北地方の高瀬川で 1,666 種等でした。

(2) 特定種一覧

今回とりまとめを行った 21 河川で確認された特定種は、環境省（庁）のレッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に指定されているコガタノゲンゴロウ等、7 目 25 科 38 種でした。特定種の確認種数が多かった河川は、東北地方の高瀬川の 16 種、関東地方の富士川の 7 種でした。確認河川数が多かった種は、環境省（庁）のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に分類されるツマグロキチョウ、準絶滅危惧に分類されるコオイムシ、ギンイチモンジセセリの 4 河川、次いで絶滅危惧Ⅰ類に分類されるズイムシハナカメムシ、シルビアシジミの 3 河川でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種 緊急指定種
- ・ 環境省（庁）編「レッドリスト」掲載種（2000）

(3) 外来種一覧

今回とりまとめを行った 21 河川で確認された外来種は、7 目 22 科 40 種でした。外来種の確認種数が多かった河川は、関東地方の富士川の 17 種、次いで中部地方の庄内川の 16 種、近畿地方の淀川水系猪名川、四国地方の物部川、仁淀川の 15 種でした。外来種の全く確認されなかった河川はありませんでしたが、地方別では北海道地方の 3 種の確認が最も少ない結果でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6（26～27 ページ）および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。